

引き続き、全国総合福祉車両協議会（以下、当協議会）に加盟する事業者様による「取り組み好事例」を紹介します。

新潟県柏崎市で、車両販売・カーリース・钣金補修・カーメンテナンスなど、車関連事業を幅広く手掛ける品田商会の品田庄一代表取締役にお聞きしました。



品田商会様は、SS事業者でもあり、福祉車両事業を展開する上で様々な気付きを与えてくださいます。

――当協議会に加盟したきっかけは何だったのでしょうか

弊社が、当協議会に加盟したのは平成28年、今から14年前のことです。当社はこれから「福祉車両事業を推し進めていきたい」と画策していた折、知人から、当協議会をご紹介していただきました。

――品田商会様と当協議会とは、かなり長いお付き合いになりますね。御社の福祉車両事業はこの間、大きな成長を遂げられたのではないですか

介護施設様に、福祉車両2台を納めるところから始まったのですが、今にちでは、福祉車両事業は弊社の「事業の柱」のひとつと呼べるまでになっています。

――相応のご苦勞もあったか
と思います。事業成長を遂げられた秘訣をお教えください

当協議会様の存在、お力添えがやはり大きかったですね。

当協議会が背後から支え、弊社がいまも継続して開催している「介護福祉施設向けの安全教室」は、介護福祉施設から価値や効果を認められ、弊社にとっても将来につながる意味のある活動、その試みとなっています。

介護福祉施設様に福祉車両の取り扱い方法や、車椅子用リフトのメンテナンス方法などを教えると、たいそう喜んでくださいます。

当協議会を通じて、この安全教室を成功に導くためのノウハウや、福祉車両の修理やメンテナンスに関する専門知識を授かり、身につけることができました。

福祉車両がマイナーチェンジやモデルチェンジをした際、リ

フトの機構なども仕様変更される場合があります。



当協議会の代表理事・稲垣（利一）様は、最新かつ適切な情報を絶え間なく収集しており、それら情報についても当協議会会員に逐一、発信しています。

当協議会会員が分からないことがあれば、24時間・365日（年中無休）のサポート体制を固めており、電話での相談事に

も快く応じてくれます。

ですから、福祉車両や福祉機器・装備品に不具合が生じてもすみやかに原因を特定し、修理を完了させられます。

自動車ディーラー様だと、そうはいきません。

福祉車両の修理を依頼すれば、
10日以上を費やす、なんてことはザラにあります。それを必要としているお客様の困り事を解決する「迅速さ」という点では、
当協議会会員の対応と彼らのそれは比べるべくもありません。

――「安全教室」開催のノウハウ、修理・メンテナンスの知識、

両面で当協議会のサポートを得、御社の福祉車両事業を伸ばしてきたことが分かり、当協議会としても嬉しい限りです。お客様の数を増やせた秘訣には、福祉車両の代車を用意したこともあ

るとか：

钣金修理ほかで福祉車両をお預かりすると、その間、介護施設様は当該車両を利用できません。介護施設様にとって、死活問題です。



そこで弊社は、福祉車両にいても代車をご用意することになりました。

すると、代車の貸し出しがきつかけとなり、さらに、車検やカーリースでの商談をいただける

ようになりました。介護施設各所の会議などの場でも、弊社の取り扱いメニューを紹介していただけるようになりました。

今は、ハイエースタイプの福祉車両2台、軽自動車のスロープ車1台、合わせて4台の車両をご用意し、代車に振り向けています。

この代車の存在が弊社の一歩の強みであると考えています。

弊社はいつとき、全6台の代車を用意していました。前述のとおり、今は4台ですが、代車の数をどれだけご用意すればよいのか、随分と頭を悩ませました。ともかくも適切な台数を導き出せるように分析を深めたのです。

――当協議会の取り組みに興味関心がある事業者様に向け、一言頂だいできますか

まず、経営トップが、福祉介

護の分野で事業を本格化させるのだと覚悟を決めること。それと福祉車両の代車は不可欠。ぜひそれをご用意し、福祉車両事業を展開するのが最善と考えます。

福祉介護分野、福祉車両にかかわる専門知識・技術を身につけるのは言わずもがな、営業活動を繰り広げるにも実践的な方法・手順が存在します。

その意味で、当協議会にぜひ加盟することをお勧めします。

単純に、福祉車両事業は事業成長が見込める、代車を用意すればすべて上手く運ぶ、なんてことはあり得ません。

介護福祉施設様と末永くお付き合いをしていくには、われわれ事業者はその道のプロにならないとダメ。当協議会に加わると同じ志を持つ仲間ができるの

も大きな利点です。互いに切磋琢磨できれば、なおよしです。

――自社独自で、福祉車両事業を軌道にのせるのは相当難しいのでしょうか

率直に、ともに成長していくのですよ。

実は、弊社は、当協議会の下部組織として「新潟県支部」を別途設け、10年以上におよぶ活動を続けています。



定期的に、現地新潟で会議を開催。前述の「安全教室」の講師になるためのインストラクター研修の実施や、また、福祉車両の分解整備・メンテナンスの方法などを繰り返し学び、最新情報もつかみつつ、共有しています。

同じ志をもち、意欲的な姿勢を崩さない仲間がいれば、各社個々のノウハウの数々を共有することも容易です。「福祉車両のレンタカー」を融通しあうこと

だつてできます。つい先日、旧型と現行のハイエース型福祉車両を用意して、実際に分解し、壊れやすい箇所を確認するといった専門的な研修を実施しました。JSJ新潟の敷地をお借りして、丸一日を掛けて実践的に習得するのが、その中身です。

とだつてできます。

福祉車両の現車を用い、学び

を深められますから、ここに参加したメカニクたちも有意義な時間を過ごせたのだという事になりますね。

地道なこのような活動を自社単独で定期的に行うのは、かなり難しいのではないでしょうか。

その意味でも、当協議会に加わる意義はあるかと思います。ともに歩んではいこうではありませんか。何とぞ、よろしくお願いいたします。

――品田様、ありがとうございました。